

|   |  |          |                         |
|---|--|----------|-------------------------|
| 牛久市環境審議会議事概要  |  | 開催日      | 令和3年10月11日(月)           |
| 件名  | 令和3年度 第3回会議  | 場所<br>時間 | 本庁舎3階 庁議室<br>9:30~11:00 |
| 作成年月日   | 令和3年10月15日(金)  | 作成       | 環境政策課:小河原 晋             |
| 出席者   | (出席委員) 福島会長、秋山副会長、鈴木委員、浅野委員、岡川委員、桑名委員、佐藤委員、牧委員、丸山委員<br>(牛久市) 山岡環境経済部部長、大徳環境経済部次長<br>(事務局) 横瀬環境政策課課長、張替新エネルギー対策室室長、久保田副参事、小河原主査<br>(傍聴者) 3名 (順不同・敬称略) |          |                         |
| 議事内容  | (1) 第4期環境基本計画の原案について(審議)<br>(2) その他  |          |                         |
| 会議内容等   |  |          |                         |
| <p>(1) 第4期環境基本計画の原案について(審議)</p> <p>事務局より、牛久市第4期環境基本計画原案の説明。</p> <p>委員からの主な意見</p> <p>①「第1章 はじめに」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境を取り巻く情勢」については、時代の変化をどう市民に理解してもらうかである。また、子どもに対しては環境学習を活用して構造を理解してもらうことが重要になる。</li> <li>・p.4の地球温暖化の説明が第3期環境基本計画と比べて簡略化されているため、詳細に記載して欲しい。</li> <li>・p.7の牛久市バイオマスタウン構想の説明について、牛久市では耕作放棄地だけでなく、放置林も問題となっている。木材のチップ化などで解決していく方向性もあると思うので、放置林について言及してはどうか。</li> </ul> <p>②「第5章 施策体系と取り組み」について</p> <p>【基本目標1 環境への意識が高いまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題解決や環境学習の推進に関する人材について、人材育成を行う機会を増やすことだけでなく「仕組みづくり」が重要である。仕組みの中身は「個別の機会確保」ということになると思うが、人材育成や人材確保するための「仕組みづくり」について明記してはどうか。</li> <li>・出前講座について、どのような人が講師でどれだけの人が参加しているかなどの情報を記載してはどうか。講座の参加者等の数値は、基本目標1の指標の1つとして活用できるのではないか。</li> <li>・p.23のうしくみらいエコフェスタについて、当イベントは子どもたちが総合的な学習の時間を活用して行った環境に関する1年間の学習成果の発表の場になっており、牛久の子どもたちの自発性や成長が現れていることを伝えてほしい。</li> </ul> |  |          |                         |

### 【基本目標 2 生物多様性と豊かな自然を守り育てるまち】

- ・ p. 30 の耕作放棄地の拡大防止に関する記載について、これまで取り組んだ効果について、分かりやすく記載をして欲しい。
- ・ p. 32 の目標とする指標について、生物多様性の指標として生態系のトップのフクロウが挙げられているが、フクロウは行動範囲が市内だけではなく広い。牛久独自の指標とするなら、ホタルや在来種のメダカやタナゴなど、市内の様々な生物と繋がりがあがりながら、行動範囲の狭い種を指標として挙げてはどうか。
- ・ p. 32 の目標とする指標について、フクロウがなぜ指標に挙げられているかが分かるように、コラムが書かれているが、その他の項目については説明がないため、なぜ指標に挙げられているかが分かりにくい。例えば耕作放棄地率は、それが高いと良くない理由や、市域のどういう立地の所でどういう状態で高いのかといった視点を持つ方が良いのではないかと。市全体の数字よりローカルなスケールで見ると、放棄地率が高いところを下げる重点的な取り組みに繋がるのではないかと。
- ・ p. 33 の外来生物等に関する情報提供及び対策の実施について、市民等から情報を拾い上げるという取り組みも含めて欲しい。
- ・ p. 34 の自然観察・体験の機会提供について、環境学習としての自然観察の森の利用が記載されているが、自然観察の森には水田がない。自然観察の森の環境学習だけでは、牛久の特徴の1つである水田+斜面林について学ぶことができないため、土浦市のフィールド博物館のような考え方で環境学習の場を作っていったらどうか。

### 【基本目標 3 ゼロカーボンシティ（脱炭素社会）を目指すまち】

- ・ 地球温暖化対策において、国の目標が強化され社会が大きく変わる中で、市民が置いていかれないための取り組みが自治体の役目だと思う。設備投資等の補助金は、設備投資を行える裕福な人だけが対象となる面もある。
- ・ 再生可能エネルギーに関する施策についても、市民にメリットが還元される視点があると良い。
- ・ 廃棄物の削減について、ごみを減らすだけの単体のメリットだけでなく、温暖化対策にも繋がるというコベネフィットが分かる書き方の工夫もあると良い。市役所の他の課で温暖化へのメリットがある施策もあるだろうから、多面的な視点で検討が必要ではないかと。
- ・ p. 40 の再生可能エネルギーの地産地消について、牛久市はバイオマスタウン構想の中でこれまで様々なことに取り組んできているため、推進状況を時系列に沿って数値で示して欲しい。
- ・ p. 43 のBDFの製造について、目標値では5年でBDF製造量を2倍にすると記載されているが、現状の推移が分からない。

### 【基本目標 4 無駄なく資源が循環する美しいまち】

- ・ 表題について、「無駄なく資源が循環する美しいまち」の「美しい」は必要ないのではないかと。
- ・ 廃棄物に関する取り組みは、市民、事業者、行政の全てが連携をしないと上手くいかないことが多い。市内の事業者がごみの削減等に取り組むとなった時に、市役所の窓口がどこか明確にした方が良い。
- ・ 事業系食品ロスについて、世界の傾向として可食部を増やす取り組みが進んでいる。農産物

も半分以上捨てられている状況がある。牛久市らしさを打ち出すなら、農作物の100%を使って作った料理を載せたりすると親しみやすいのではないか。

- ・ p. 53 の事業系ごみの排出管理及び事業者との協働について、牛久市は県内でも家庭ごみの減量はできているが、事業系ごみはあまり減っていない。理由として、事業者数が増えているということ廃棄物対策課から聞いたが、1事業所あたりや生産額あたり等の原単位で指標を立てる工夫もできるのではないか。

#### 【第5章全体について】

- ・ p. 11 に計画の推進主体として、市民・事業者・行政の3つが挙げられているが、各目標に対して、主体別にどのような活動や対策を行っていくかが記載されている部分では、よく見れば施策が市の役割そのものなのは分かるが、市民・事業者だけが役割を書かれているように見える。また、「市民の役割（例）」の例という文言に違和感がある。
- ・ 基本目標3と4では、市の施策として市全体でやることの調整や管理が多く書かれているが、市役所内における施策等、市が更に進んで自ら取り組むべきものを宣言して示すことも大事ではないか。
- ・ 環境への取り組みは市民による関わりが大事で、それが明記されている事は分かりやすいが、進捗管理指標を見ると個人との関わりが見えにくいので、コラム等で具体的に解説を行い、生活に合った資料が載っていると分かりやすいのではないか。

#### ③原案全般の修正について

- ・ 全体の構成として、メリハリがない。構成・区切りがしっかり分かるように主要ではないものを小さくする、表題に番号をつける等、配置を工夫してほしい。

#### (2) その他

- ・ 次回の審議会は、11月22日（月）の9時30分開始を予定する。

以上